

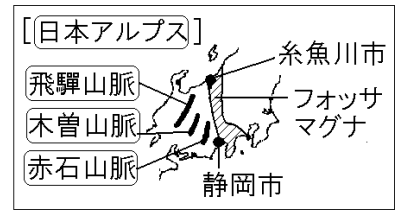
【】 地形

[日本アルプスなど]

[解答 1] 日本アルプス

[解説]

本州の中央部には、飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈があり、3000メートル前後の山がそびえ、日本アルプスと呼ばれている。日本アルプスは、「日本の屋根」とも呼ばれている。フォッサマグナは幅100km以上の大地溝帯で、その西側は新潟県糸魚川市と静岡県静岡市を結ぶ線である。



※この単元で特に出題頻度が高いのは「日本アルプス」「飛驒山脈」「木曾山脈」「赤石山脈」である。「フォッサマグナ」もときどき出題される。

[解答 2](1) X 飛驒山脈 Y 木曾山脈 Z 赤石山脈 (2) 日本アルプス (3) フォッサマグナ

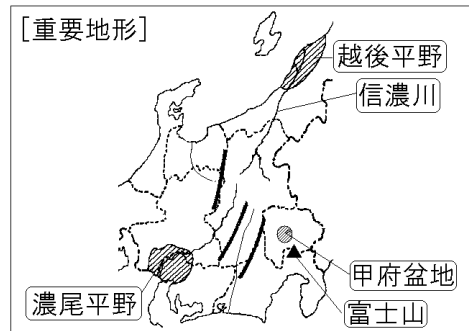
[その他の重要地形]

[解答 3](1) 信濃川 (2) 越後平野 (3) 濃尾平野

[解説]

日本アルプスから流れ出した信濃川は、長野県から新潟県へ流れる日本一長い河川である。信濃川の下流と阿賀野川下流の三角州にできた平野は、日本でも有数の水田単作地帯である越後平野である。

日本アルプスから太平洋側に流れ出る河川の上流部には甲府盆地などが点在しており、下流部には濃尾平野などが広がっている。



※この単元で特に出題頻度が高いのは「信濃川」「越後平野」「濃尾平野」である。「富士山」「甲府盆地」もよく出題される。

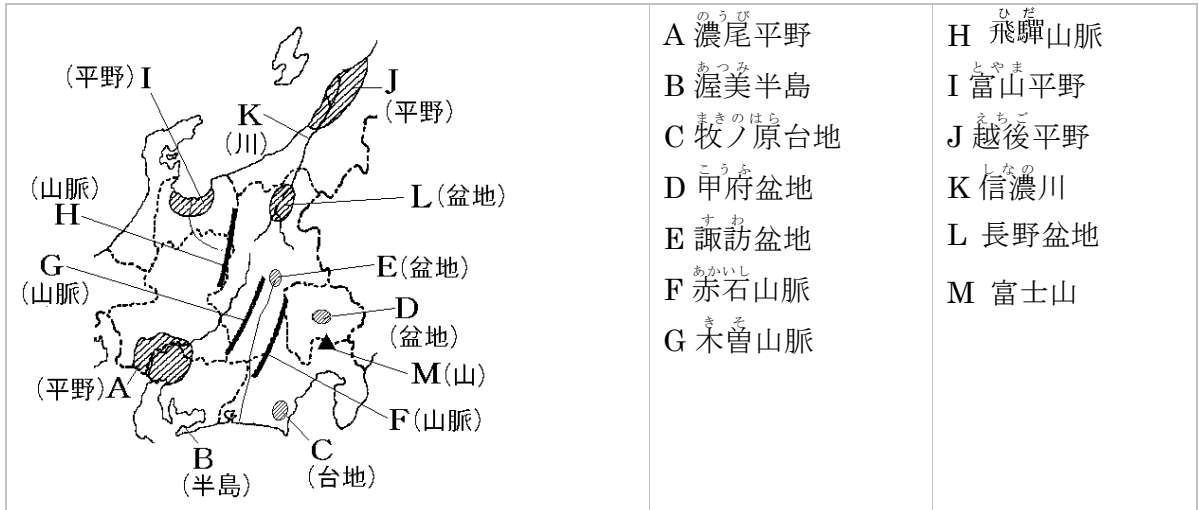
[解答 4] A 飛驒 B 木曾 C 赤石 D 信濃 E 越後 F 濃尾 G 甲府 H 富士

[解答 5] ① 信濃川 ② 富士山

[その他の地形]

[解答 6] A 越後平野 B 信濃川 C 木曾山脈 D 甲府盆地 E 富士山 F 濃尾平野
G 渥美半島 H 牧ノ原台地

【解説】



【】 県名・地域名

【解答 7】(1)① 愛知県 ② 静岡県 ③ 山梨県 ④ 長野県 ⑤ 岐阜県 ⑥ 新潟県

⑦ 富山県 ⑧ 石川県 ⑨ 福井県 (2) ①名古屋市, ③甲府市, ⑧金沢市

【解答 8】① 東海地方 ② 中央高地 ③ 北陸地方

【解説】

中部地方は、太平洋側の東海地方、内陸部の中央高地、日本海側の北陸地方の3つの地域に分けられる。東海地方(静岡県, 愛知県, 岐阜県(一部), 三重県(近畿地方の県))は、太平洋側の温暖な気候と広い平野にめぐまれ、人口密度が高い。中央高地(長野県, 山梨県, 岐阜県(一部))は、けわしい山地が広がり、夏は涼しく、冬は寒さが厳しい。北陸地方(新潟県, 富山県, 石川県, 福井県)は冬の積雪期間が長く、世界有数の豪雪地帯である。

※この単元で出題頻度が高いのは「東海地方」「中央高地」「北陸地方」である。



【解答 9】A：北陸地方, ア B：中央高地, ウ C：東海地方, イ

【解答 10】(1) 長野県, 山梨県, 岐阜県 (2) 三重県

【名古屋大都市圏・政令指定都市】

【解答 11】(1) 名古屋大都市圏 (2) 政令指定都市

【解説】

(1) 大都市圏としては、東京大都市圏、大阪大都市圏(京阪神大都市圏)、名古屋大都市圏、がある。(2) 中部地方の政令指定都市は、名古屋市・静岡市・浜松市・新潟市の4都市である。

(新潟市の人口は約 81 万人(2015 年)で北陸地方で最も人口が多い)

※この単元はときどき出題される。

[解答 12](1) 名古屋市, 浜松市, 静岡市 (2) 新潟市

【】 3 地域の気候

[解答 13] 東海地方：イ 中央高地：ウ 北陸地方：ア

[解説]

中部地方の気候は、日本海側の気候・中央高地の気候・太平洋側の気候の 3 つに分けることができる。

この 3 つの気候の大きな違いは季節ごとの降水量である。冬には北西の季節風がふくが、この季節風は日本海を通るときに暖流である対馬海流から大量の湿気を与えられる。湿った季節風が日本列島に達し、山脈・山地で上昇気流ができて雲ができて、日本海側に多量の雪をもたらす。したがって、日本海側では冬(とくに 12 月・1 月)の降水量が多くなり、雨量を示す棒グラフは凹型になる。

この季節風が山脈・山地をこえて内陸から太平洋岸を通るときは、乾燥しているため、雨は降りにくい。したがって、冬の太平洋側や内陸の降水量は少なくなる。

逆に、夏には南東の季節風がふくため、太平洋側の降水量が多くなり、雨量を示す棒グラフは凸型になる。夏の日本海側や内陸の降水量は比較的少ない。

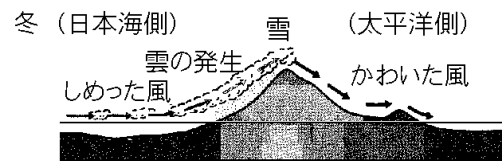
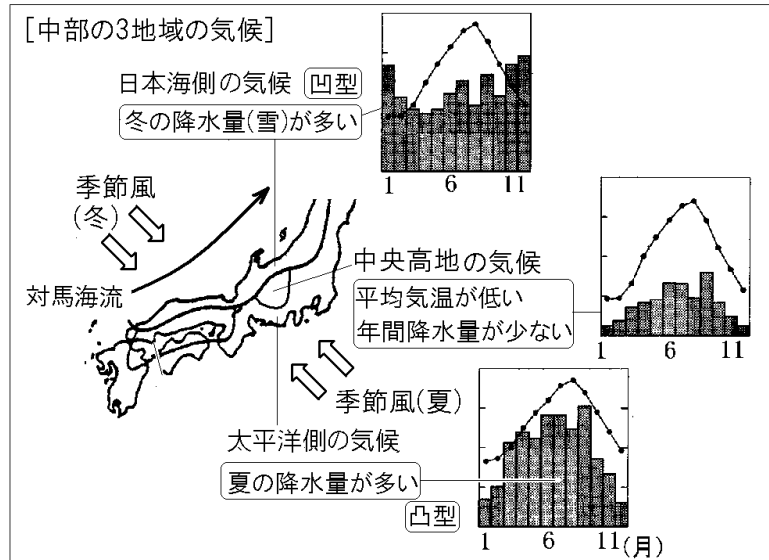
内陸は冬も夏も降水量が少ないため、年間の降水量は太平洋側の半分程度である。

冬の降水量の方が少ないため棒グラフの形は凸型になる。また、中央高地は標高が高いため、平均気温が低い。以上より、問題の雨温図の A は日本海側、イが太平洋側、ウが内陸にある中央高地のものであることがわかる。

※この単元で特に出題頻度が高いのは、「雨温図」が東海地方、中央高地、北陸地方のどこのものかを問う問題である。

[解答 14](1) A 北陸地方 B 中央高地 C 東海地方 (2) ① 季節風 ② 盆地 ③ 少な
④ 夏 (3) I ウ II イ III ア

[解答 15] 東海地方：A, 夏の降水量が多いから。 中央高地：C, 年間の降水量が少なく、平均気温も低いから。 北陸地方：B, 冬の降水量が多いから。



[解答 16]合掌造り

[解説]

雪の多い北陸や中央高地は、世界有数の豪雪地帯である。
 問題の図は、岐阜県の白川郷や富山県の五箇山で見られる合掌造りという伝統的家屋で、雪がすべり落ちやすいように屋根の傾斜が急になっている。世界遺産にも登録されており、現在は、住居としてだけでなく観光資源としても活用されている。

[合掌造り]
 白川郷、五箇山
 世界遺産、観光資源

※この単元で出題頻度が高いのは「合掌造り」である。

[解答 17]① 豪雪 ② 白川郷 ③ 合掌造り ④ 世界 ⑤ 観光

【】 農業など

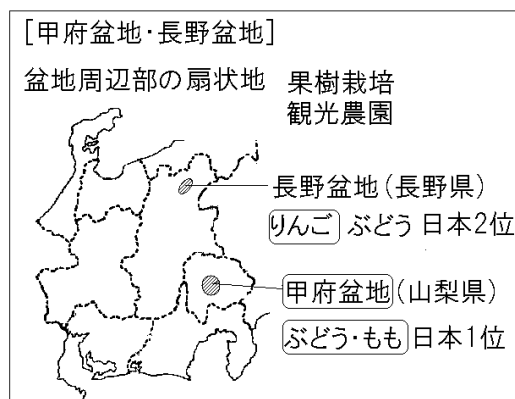
【】 中央高地

[甲府盆地と長野盆地の果樹栽培]

[解答 18]① 甲府盆地 ② ウ

[解説]

甲府盆地(山梨県)や長野盆地(長野県、千曲川流域)の中央部の低地には水田地帯が広がっている。しかし、盆地の周辺部の扇状地には砂や小石の混じった水がしみこみやすい土壌が広がり、水田に適さない。そのため、扇状地では、かつてはくわ畑が広がり養蚕が行われていた。現在ではおもにぶどう、もも、りんごなどの果樹栽培がさかんである。収穫された果実は、高速道路網が発達したことによって、大都市に短時間で出荷することがで



きるようになった。大都市への近さを生かして、ぶどう狩りやりんご狩りを行う観光農園も見られる。山梨県のぶどう、ももの生産はともに全国一である。長野県の長野盆地では、りんごなどの栽培が行われている。長野県のりんごの生産は青森県について全国第2位である。
 ぶどう(2015年)：山梨県(22.9%)、長野県(15.7%)、山形県(10.1%)、岡山県(9.0%)

もも(2015年)：山梨県(31.7%)、福島県(21.8%)、長野県(13.0%)

りんご(2015年)：青森県(57.9%)、長野県(19.4%)、山形県(6.2%)、岩手県(6.0%)

(統計修正)「日本国勢図会2017/2018」P155

※この単元で出題頻度が高いのは「ぶどう：山梨県、長野県」「もも：山梨県」である。「りんご：青森県、長野県」「甲府盆地」「扇状地」もしばしば出題される。

[解答 19](1) 扇状地 (2) 米 (3) 長野盆地

[解答 20]A りんご B ぶどう C もも

[解説]

Aは1位青森県・2位長野県なので「りんご」とすぐにわかる。

BとCは山梨県が1位なので「ぶどう」か「もも」である。第2位に福島県が来るCが「もも」と判断できる。(みかん1位は和歌山県, なし1位は千葉県, さくらんぼ1位は山形県)

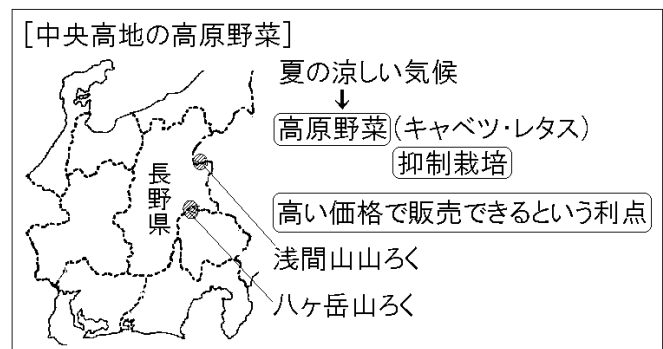
[解答 21](1) 山梨県 (2) 観光農園 (3) 扇状地 (4) 養蚕業

[中央高地の高原野菜]

[解答 22]① 高原 ② 抑制

[解説]

キャベツやレタスなどは、本来夏には作ることができない。標高の^{ひょうこう}高い中央高地(長野県の^{やつがたけ}八ヶ岳山ろくの^{のべ}野辺山原・^{やまはら あさまやま}浅間山山ろくなど)では夏の間も20℃前後と涼しいため、キャベツ・レタスなどを夏に出荷している。このような野菜を^{こうげん やさい}高原野菜といい、涼しい気候を利用して^{しゅうかく しゅうつか おく}収穫・出荷を遅らせる栽培方法を^{よくせいさいばい}抑制栽培と呼んでいる。



交通の発達などにより大都市への輸送が容易になったことで、栽培がさかんになった。現在では、^{ほれい}保冷技術の進歩や高速道路の利用によって、早朝に^{しゅうかく}収穫した野菜がその日の夕方には東京や名古屋などの大都市の店頭で販売されるようになっている。ほかの産地の野菜の出荷量が少ない時期に出荷できるため、高い価格で販売できるという利点がある。長野県はレタスの生産量が日本一である。

※この単元で出題頻度が高いのは「高原野菜」「抑制栽培」「ほかの産地の野菜の出荷量が少ない時期に出荷できるため、高い価格で販売できる」である。

[解答 23]エ

[解答 24]夏の冷涼な気候を利用して収穫・出荷を遅らせ、他県の出荷量が少ない夏に出荷している。

[解答 25]他県の出荷量が少ない夏に出荷できるため高い価格で販売することができるから。

[解答 26]レタス

(統計修正)「日本国勢図会 2017/2018」P158

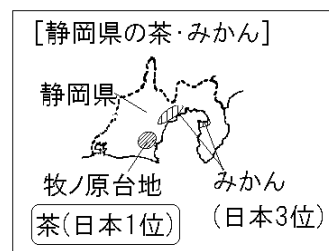
【】 東海地方

[静岡県の茶・みかん]

[解答 27]茶

[解説]

静岡県は台地が多いため、畑作が中心で、稲作は少ない。静岡県の茶の生産は全国の4割をしめ、日本1位である。静岡と同じように畑作が中心の鹿児島県が第2位になっている。静岡県の中でも、大井川西岸に広がる牧ノ原台地は、日当たりがよく水はけがよいことから茶の生産の中心地になっている。茶とともに静岡県の農業の中心となっているのはみかんの栽培である。



気候が温暖な駿河湾沿岸の丘陵地などを中心に栽培されている。

茶(2016年)：静岡県(38%)、鹿児島県(31%)、三重県(8%)、宮崎県(5%)、京都府(4%)

みかん(2015年)：和歌山県(20.6%)、愛媛県(15.5%)、静岡県(13.0%)、熊本県(9.6%)

(統計修正)「日本国勢図会2017/2018」P155, P159

※この単元で出題頻度が高いのは「茶」「静岡県が日本一」である。

[解答 28]A みかん B 茶

(統計修正)「日本国勢図会2017/2018」P155, P159

[解答 29]① 牧ノ原台地 ② エ

[愛知県渥美半島の施設園芸農業]

[解答 30]施設園芸農業

[解説]

気候が温暖な渥美半島では、第二次世界大戦後に豊川用水が完成したことで水不足が解消して農業がさかんになった。キャベツ、スイカなどの露地栽培のほか、ガラス温室やビニールハウスを用いた施設園芸農業もさかんで、温室

[渥美半島]

豊川用水→水不足が解消

施設園芸農業: メロン, 電照ぎく

メロン、電照ぎく(開花時期をおくらせるために温室内を照明で照らして栽培)が栽培されている。これらは、高い価格で売れるようにほかの産地と出荷時期をずらすように栽培され、名古屋大都市圏だけでなく、東京や大阪などの大都市をはじめ全国に出荷されている。

※この単元で出題頻度が高いのは「施設園芸農業」である。「豊川用水」「電照ぎく」もよく出題される。

[解答 31](1) 渥美半島 (2) 豊川用水 (3) 施設園芸農業 (4) 電照ぎく

[解答 32](1)① きく ② 花の開く時期をおくらせるため。 (2) りんご

[用水]

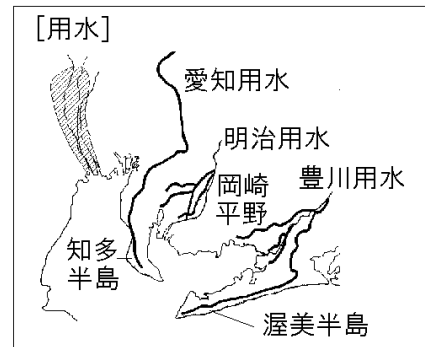
[解答 33]X 愛知用水 Y 明治用水 Z 豊川用水

[解説]

愛知県の知多半島、岡崎平野、渥美半島は台地になっており、水がとぼしいため、開拓がおくれた。明治時代の初期に建設された明治用水は、矢作川から取水しており、岡崎平野をうるおしている。

第二次世界大戦後、知多半島には木曾川から愛知用水が、渥美半島には豊川や天竜川から豊川用水が引かれ、水不足が解消した。

※この単元はときどき出題される。

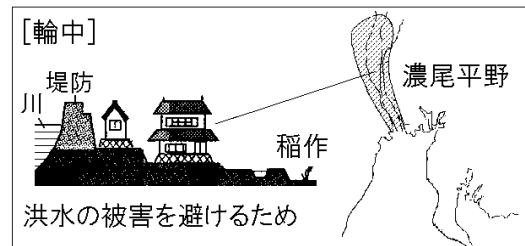


[濃尾平野の輪中]

[解答 34]① 濃尾 ② 洪水 ② 輪中

[解説]

木曾川、長良川、揖斐川の流れる濃尾平野西部の低地は、かつては毎年のように洪水になやまされてきた。そこで江戸時代になると、家や農地を洪水の被害から守るため、村の外側を高い堤防で囲む輪中と呼ばれる集落が作られるようになった。しかし、明治時代以降、近代的な治水工事が



行われるようになると、洪水などの被害も少なくなり、輪中はしだいに必要とされなくなった。現在、輪中は一部の地域に残るだけになっている。この一帯では、豊かな水とよく肥えた土壌にめぐまれ、農業はおもに稲作が行われている。

※この単元でときどき出題されるのは「洪水」「輪中」である。

[漁業]

[解答 35](1) 焼津港 (2) 遠洋漁業

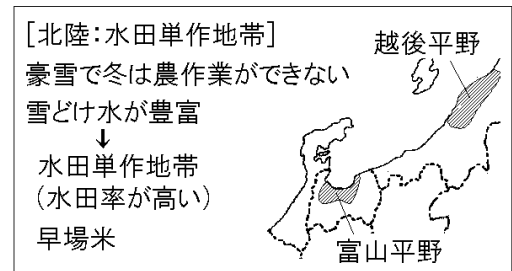
【】 北陸地方

[北陸地方：水田単作]

[解答 36]越後平野

[解説]

北陸地方は、世界でもっとも雪が多く降る地域の1つである。これは、シベリアからふく北西の季節風が日本海を流れる暖流の対馬海流から水蒸気もらって、山地にぶつかり、多くの雪を降らせるためである。豪雪のため冬の間は農業ができない。春になると、冬に積もった雪がとける。こ



この雪どけ水が豊富にあるという条件が稲作に適している。冬に農業ができないことと豊富な雪どけ水を利用できることから、北陸地方は日本有数の水田単作地帯となっている。扇状地が多い北陸地方の平野では、ほかの地域から土を運んでくる客土によって土地の改良が行われ、今日では日本を代表する水田地帯となっている。

越後平野や富山平野などの平野は夏の気温が高くなることをいかして秋の早い時期に出荷する早場米の産地としても有名である。

新潟県のコシヒカリは、秋田県のあきたこまちなどとともに、代表的な銘柄米として有名である。また、最近、生産されたものをその地域で消費する地産地消の動きが高まっている。
※この単元はときどき出題される。

[解答 37]① 客土 ② 越後 ③ 富山 ④ 早場

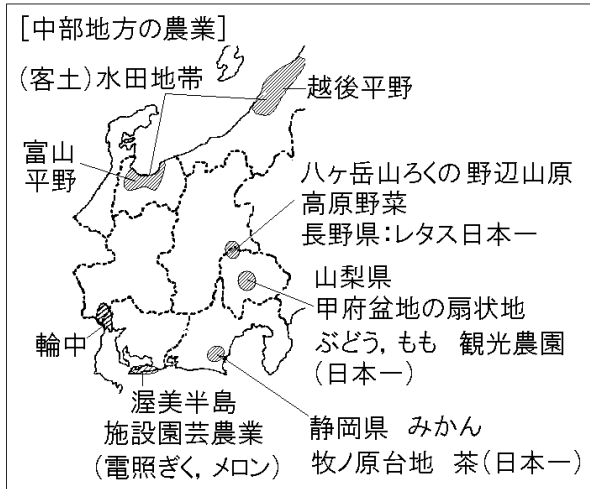
[解答 38]雪におおわれる冬は農業ができないが、春になると豊富な雪どけ水を利用して稲作を行うことができるから。

[解答 39]① 銘柄 ② 地産地消

【】 農業全般

[解答 40] 東海地方：ウ 中央高地：イ 北陸地方：ア

[解説]



※この単元はよく出題される。

[解答 41] A 新潟県 B 愛知県 C 長野県 D 山梨県

[解説]

地図中に^①で示した4つの県は、新潟県、長野県、山梨県、愛知県である。

Aは農業生産額に占める米の割合が高いことから新潟県と判断できる。新潟県の越後平野は日本有数の水田地帯である。CとDは果実の割合が高いので、長野県か山梨県である。長野県は高原野菜の出荷も多いのでCと判断できる。残りのBは愛知県である。愛知県は花きや野菜のビニールハウスなどでの栽培がさかんである。

[解答 42] ① 茶 ② 施設園芸 ③ ぶどう ④ 観光 ⑤ 山梨 ⑥ 長野 ⑦ レタス ⑧ 稲

【】 工業

【】 中京工業地帯

[中京工業地帯：出荷額・出荷割合]

[解答 43] 中京工業地帯

[解説]

中京工業地帯の工業製品出荷額は日本1位で、機械工業(とくに自動車(輸送機械))の占める割合が約67%と非常に高い。

※この単元で出題頻度が高いのは「中京工業地帯」である。「出荷額日本1位」「機械工業(自動車)の割合が高い」もしばしば出題される。

[中京工業地帯]
・工業製品出荷額は日本1
・機械工業の割合が高い

[解答 44]① D ② 出荷額が一番多く、機械のしめる割合が高いから。

(統計修正)「日本国勢図会 2017/2018」 P184

[中京工業地帯：自動車産業]

[解答 45]豊田市

[解説]

愛知県を中心に広がる中京工業地帯は、自動車産業がさかんで、輸送用機械工業の出荷額がしめる割合が非常に高くなっている。現在の豊田市周辺では、かつて、豊富な地下水とこの地域で生産された綿花を活用したせんい工業(綿織物)がさかんであった。この地域にあったせんい機械

の会社が、それまでつちかっていた技術力を結集して、1930年代に自動車をつくったのが、現在のトヨタ自動車の始まりである。自動車産業は、約3万点の部品を組み立てて自動車1台をつくる、総合的な組み立て型の産業である。そのため、自動車工場のまわりには、部品をつくる関連工場がたくさん集まっている。これらの関連工場から効率よく部品を納入してもらうしくみによって、時間や在庫のむだをはぶいている。完成した自動車は、付近を走る高速道路や、名古屋港に設けられた自動車専用の埠頭を活用して日本各地や世界の国々へ運ばれている。名古屋港で最も輸出額が多い輸出品は自動車である。豊田市のように、1つの大企業と多数の関連会社によって、経済がほぼ成り立っているような町のことを企業城下町という。

※この単元で出題頻度が高いのは「豊田市」「輸送用機械(自動車)工業」である。

[中京工業地帯]
輸送用機械の割合が高い
豊田市：自動車工業
高速道路→名古屋港から出荷



[解答 46](1) 中京工業地帯 (2) 豊田市 (3) 輸送用機械工業 (4) 自動車

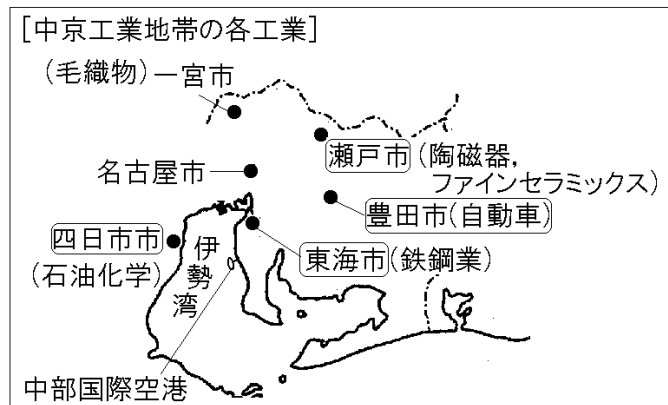
[解答 47](1) 豊田市 (2)① 関連工場 ② 高速道路 (3) 企業城下町

[中京工業地帯：その他の工業]

[解答 48]① 四日市市 ② 東海市 ③ 瀬戸市

[解説]

戦後に自動車工業とならんで発展した鉄鋼業(東海市)や石油化学(四日市市、知多市)などの工業は、原料や燃料を外国からの輸入にたよっているため、工場は伊勢湾の沿岸につくられている。これらの工業は自動車工業とも結びついている。



製鉄所からは自動車用のうすい鉄板が、石油化学工場からは多くの部品の原料として欠かせないプラスチックが納入されている。

そのほか、瀬戸は陶磁器の生産が行われており、近年、陶磁器からファインセラミックスへの転換が進んでいる。(陶磁器はセラミックスの一種である。セラミックスの中でも、特に電子工業をはじめ、各種産業用途に用いられる磁器は高い性能や精度が要求されることから、現在では「ファインセラミックス」と呼んで一般の陶磁器と区別している。)

二宮では、毛織物業のほかに電機・機械工業もさかんである。

なお、伊勢湾岸東部には、2005年に中部国際空港(愛称：セントレア)が開港した。

※この単元でよく出題されるのは「四日市市で石油化学工業」「東海市で鉄鋼業」「瀬戸で陶磁器・ファインセラミックス」である。「中部国際空港」もときどき出題される。

[解答 49](1) 中京工業地帯 (2)① C ② E ③ D ④ B ⑤ A (3) 中部国際空港

[解答 50](1) 石油化学工業, 鉄鋼業(製鉄業) (2) ファインセラミックス

【】 東海工業地域など

[東海工業地域]

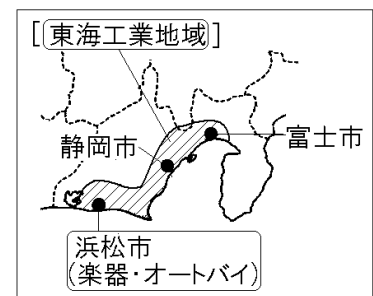
[解答 51](1)X 中京工業地帯 Y 東海工業地域 (2) 浜松市

[解説]

静岡県の太平洋沿岸には、東海工業地域が広がっている。

浜松市でさかんな楽器の製造には、天竜川から運ばれる木材資源を使って発展した木工業の技術が生かされている。第二次世界大戦中、浜松市周辺の楽器などの工場は、軍用の飛行機部品工場にかわったが、戦後はその技術を生かして、ヤマハやスズキなど、オートバイを製造する企業が成長した。また、富士市周辺では、富士山ろくから流れる川の豊富な水資源を生かして、製紙工業が発達した。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「東海工業地域」である。「浜松市」「楽器・二輪車(オートバイ)」の出題頻度も高い。



[解答 52](1) オートバイ, 楽器 (2) 静岡県

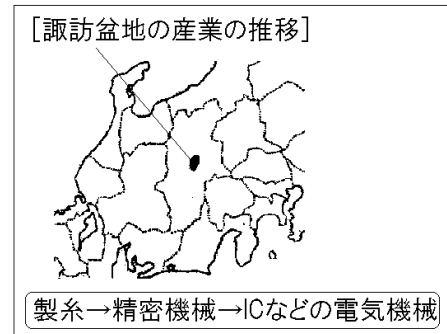
[その他]

[解答 53]① 精密機械 ② 電気機械

[解説]

長野県の諏訪盆地にある岡谷市や諏訪市では、明治から昭和の初めにかけて諏訪湖の用水を利用した製糸業が発達した。第二次世界大戦がはじまると、空襲の被害をさけるために東京から、時計やカメラなどの工場が移ってきた。これによって、戦後、時計などの精密機械工業が発達した。さらに、1982年に中央自動車道が開通すると、材料や製品の輸送が便利になり、ICや電子部品などの電気機械をつくる工場が進出した。

※この単元はときどき出題される。



[解答 54]① 北陸 ② 水力

[解説]

アルミニウム精錬には多量の電力が必要である。電力を送電線で送るとき送電ロスがあるので、発電所に近いほど経済的に有利である。富山県は、黒部ダムなど中央高地の水力発電所に近いため、豊富な電力を安い費用で利用できた。

※この単元はときどき出題される。

[解答 55]原子力発電所

【】北陸の地場産業など

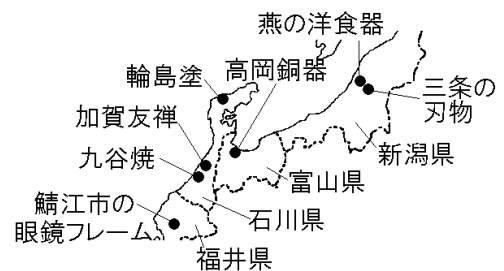
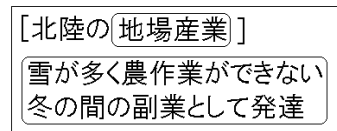
[北陸の地場産業]

[解答 56]地場産業

[解説]

北陸地方では、雪が積もる冬の間は農作業が難しいため、副業がさかんになり、地域の特色を生かした地場産業が発達した。福井県鯖江市の眼鏡のフレーム、富山の売薬などの地場産業が名高い。

地場産業の中には、古くからの技術を生かしてつくられる伝統的工芸品を製造する伝統産業も数多くある。北陸地方の伝統産業としては、石川県の輪島塗・九谷焼・加賀友禅、福井県の越前和紙、富山県の高岡銅器、新潟県燕市の洋食器、三条市の刃物



の刃物などがある。近年は、^{こうけいしゅ}後継者の不足の問題がおきている。

※この単元で出題頻度が高いのは「地場産業」「雪が多く農作業ができない冬の間の副業として発達した」である。各都市と地場産業名の組み合わせを問う問題も出題される。

[解答 57]① 雪 ② 地場 ③ 伝統的工芸

[解答 58](1) 地場産業 (2) 雪が多く農作業ができない冬の間の副業として発達したから。
(3) 眼鏡のフレーム

[解答 59]ウ

[解説]

輪島塗は石川県である。

[解答 60]ピアノ(浜松市)

【】 中部全般

[解答 61](1)A 信濃川 B 越後平野 C 甲府盆地 D 濃尾平野 (2) 日本アルプス
(3) 富士山 (4) フォッサマグナ (5)A 北陸地方 B 中央高地 C 東海地方 (6) I : ウ
II : イ III : ア (7)① ウ ② ア ③ エ ④ オ ⑤ イ (8) 中京工業地帯 (9) 豊田市
(10) 浜松市 (11) 地場産業

[解答 62](1)A 飛驒山脈 B 木曾山脈 C 赤石山脈 D 越後平野 E 濃尾平野 (2) 輪中
(3)① 北陸 ② 東海 ③ 中央高地 (4) ① (5)① 茶 ② 米 ③ みかん ④ りんご
⑤ ぶどう ⑥ もも (6)① F, 浜松市 ② D, 瀬戸市 ③ B, 名古屋市 ④ E, 豊田市
(7) 中京工業地帯 (8)① 雪 ② 地場 ③ 伝統的工芸

[解答 63](1)A 濃尾平野 B 渥美半島 C 牧ノ原台地 D 甲府盆地 E 諏訪盆地
F 赤石山脈 G 木曾山脈 H 飛驒山脈 I 富山平野 J 越後平野 K 信濃川
L 長野盆地 M 富士山 (2)① 愛知 ② きく ③ 施設 ④ 茶 ⑤ 山梨 ⑥ ぶどう
⑦ 観光 (3) 他の産地の野菜の出荷量が少ない時期に出荷できるため、高い価格で販売することができるから。 (4) D (5) 中部国際空港 (6) 名古屋大都市圏 (7) 政令指定都市
(8) 原子力発電所 (9) 眼鏡フレーム (10) 北陸地方は雪が多く、冬の期間の副業として発達した。

【Fd 教材開発】 <http://www.fdttext.com/dat/>